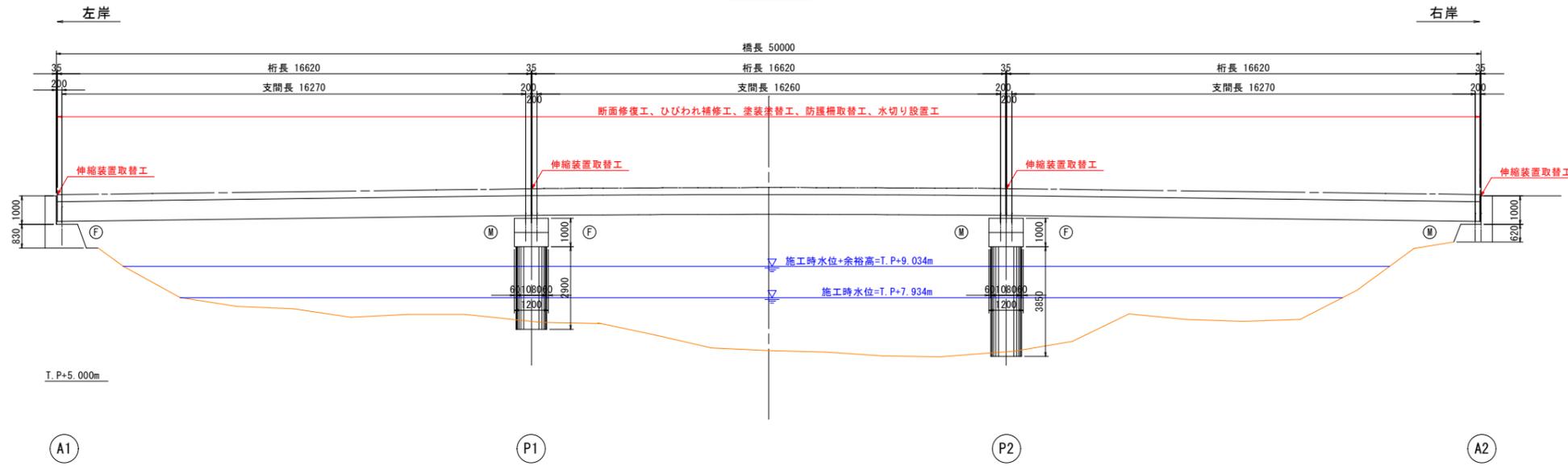
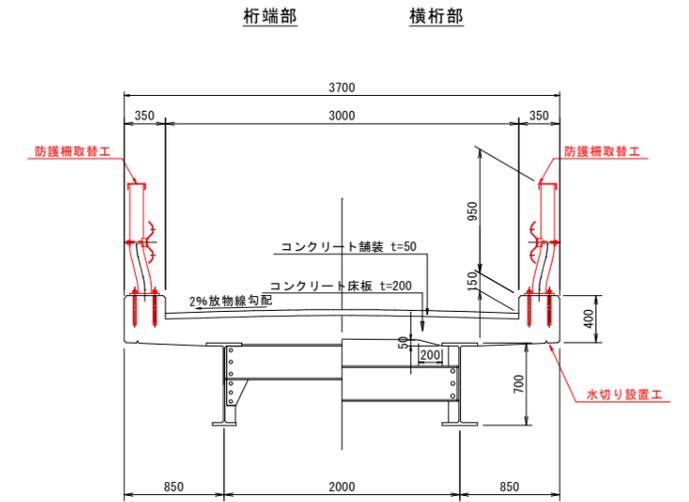


補修一般図 S=1:100

側面図



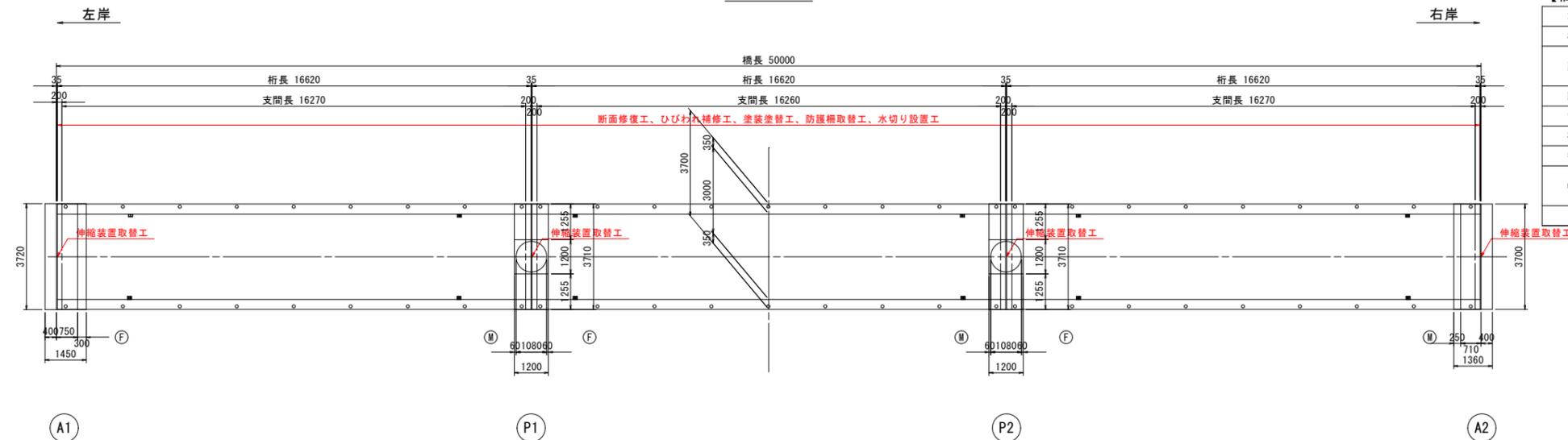
上部工断面図 S=1:30



▽ 施工時水位+余裕高=T.P+9.034m

▽ 施工時水位=T.P+7.934m
 (施工時水位はA1橋台側を示す。)

平面図



【橋梁諸元】

項目	諸元	上部工形式	鋼溶接橋 1桁(非合成)
橋梁名称	中央橋	下部工形式	重力式橋台2基、逆T型橋脚柱小判型(RC)2基
所在地	(自)徳島県鳴門市大麻町検宮ノ北 (至)徳島県鳴門市大麻町検宮ノ北	基礎工形式	-
路線名	松北中央橋線	設計荷重	TL-14
管轄	徳島県鳴門市	適用示方書	S39道路橋示方書
橋長	50.00m	架設年度	1971年8月(架設後50年経過)
径間数	3径間	交差物件	一級河川吉野川水系 坂東谷川
幅員	全幅: 3.70m、有効幅員: 3.00m 地覆0.350m+車道3.00m+地覆0.350m	添架物	-
		緊急輸送路の指定	無し
		補修履歴 (点検履歴)	2014年: 定期点検 2019年: 定期点検

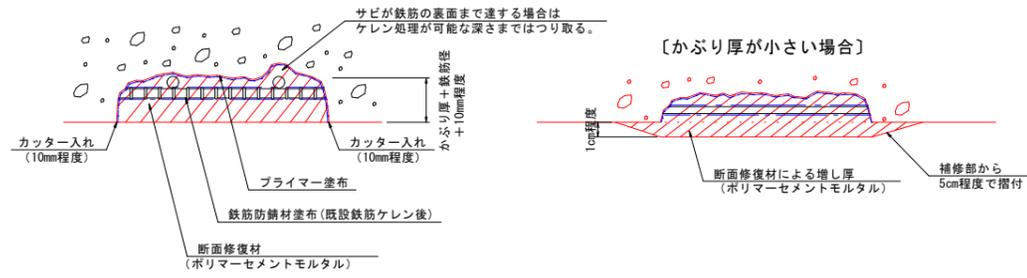
【補修項目】

項目	単位	数量	備考
断面修復工	m3	0.009	上部工
	m3	0.003	下部工
ひびわれ補修工	m	8.91	上部工
	m	0.69	上部工
塗装替工	m2	252.27	
伸縮装置取替工	m	12.00	伸縮量: 20mm以上(A1) 30mm以上(P1, A2)
防護柵取替工	設置	m	99.9
	撤去	m	99.9
水切り設置工	m2	99.7	

図面番号	第 1 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	補修一般図		縮尺(A1): 図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

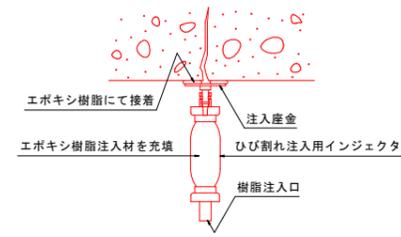
補修詳細図(その1)

断面修復工詳細図

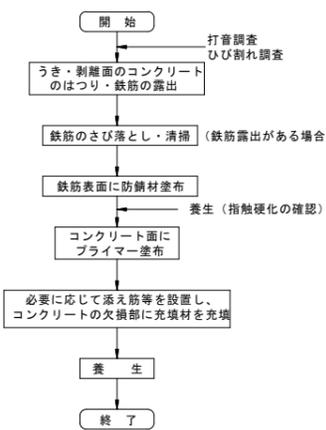


- ※ 使用する材料の仕様に基づいて施工すること。
- ※ 補修部縁端は、フェザーエッジが生じないようにカッターで切れ込みを入れること。
- ※ 鉄筋のかぶり厚が薄い場合は、ポリマーセメントモルタルで10mm以上は確保するように盛って磨り付ける形で断面修復を行うこと。施工時の番線等の残骸は可能な限り除去して断面修復すること。
- ※ はつり深さは適宜調整するものとし、脆弱部は完全に除去して充填を行うこと。
- ※ 鉄筋がある場合は、既設鉄筋の背面、既設部材の粗骨材寸法程度まで除去する。(10~20mm程度)
- ※ 豆粒部で粗骨材が露出している部分においては脆弱部ははつり取り、健全部を露出してポリマーセメントモルタル等を塗布や充填して復旧すること。
- ※ はつりを行い、鉄筋が確認された場合は錆を除去した後、鉄筋防錆材を塗布すること。

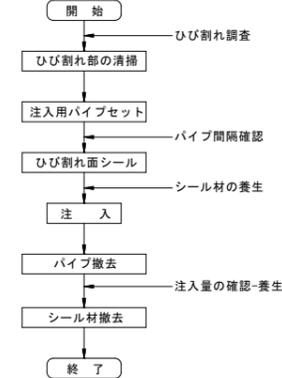
ひびわれ注入工詳細図



〔断面修復工法の施工要領〕

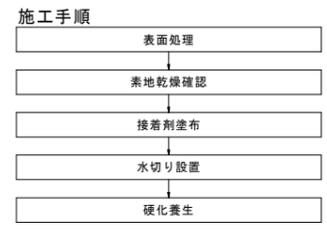
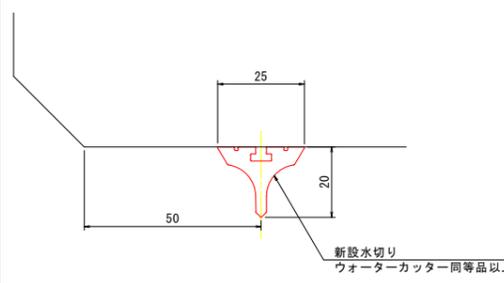


〔ひび割れ注入工法の施工要領〕



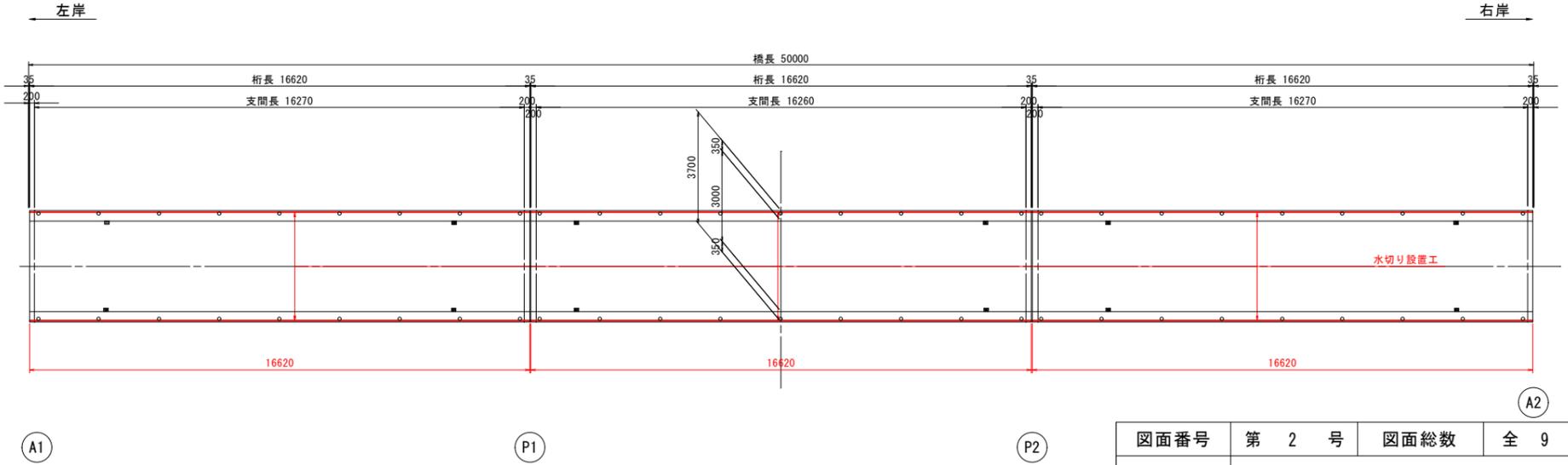
- 注) 施工時に現地実測の上、数量を確定すること。
- 注) 規格は、エポキシ樹脂注入材 1種(下部工)、3種(上部工)同等品を推奨とする。
- 注) 基本的にひび割れ幅0.2~1.0mm以下を対象にひびわれ注入による補修とする。
- 注) 遊離石灰部は研削して状態を見極めて、補修すること。
- 注) 損傷状況により補修工法に変更が生じる場合は、監督員と協議の上、最終決定すること。

水切り詳細図 S=1:1



注1) 水切りと床版の接着性、施工性、水切り機能確保するため、床版の端から50mm程度の余裕しるを確保すること。

水切り設置位置図 S=1:100



図面番号	第 2 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その1)	縮尺(A1):	図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

補修詳細図(その2) S=1:60

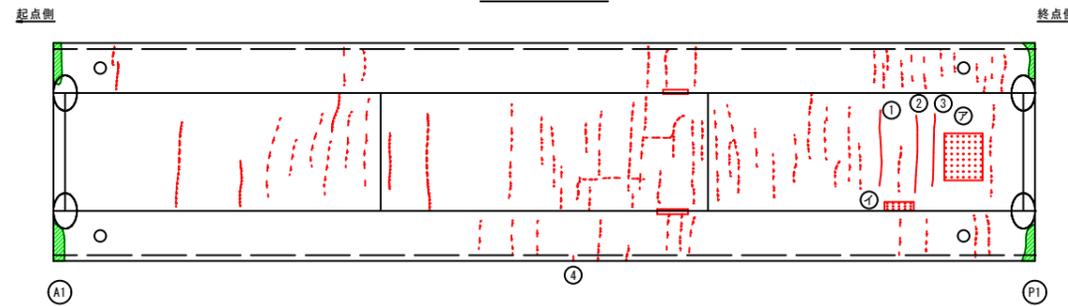
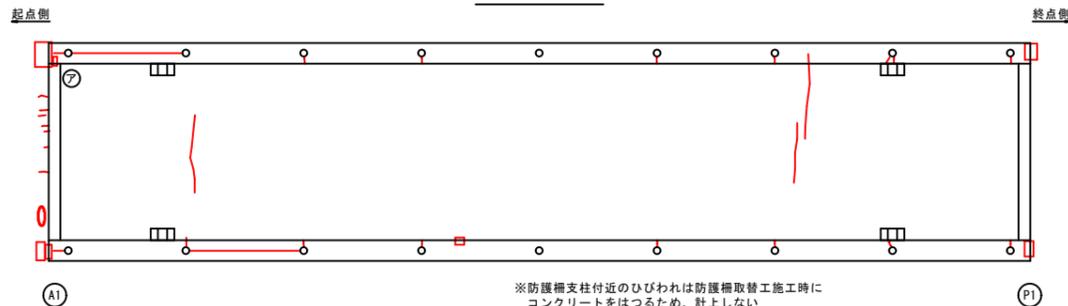
中央橋 上部工

橋面

桁下面

第1径間

第1径間



断面修復面積(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
地覆0101	ア	剥離	150	100	50	0.0150	0.0008

断面修復面積(左官工法)

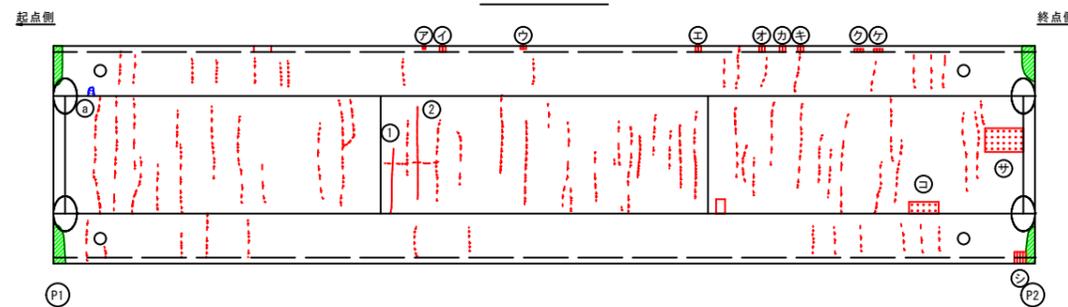
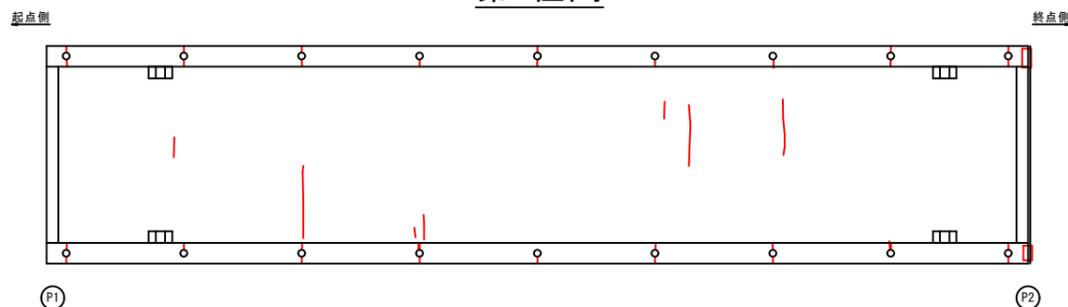
部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
床版0203	ア	豆板	800	650	50	0.5200	0.0260
床版0203	イ	豆板	150	500	50	0.0750	0.0038

ひびわれ延長(注入工)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]
床版0203	1	床版ひびわれ	0.2	1300
床版0203	2	床版ひびわれ	0.2	1170
床版0203	3	床版ひびわれ	0.2	1170
地覆0201	4	地覆ひびわれ	0.2	130

第2径間

第2径間



断面修復面積(左官工法)

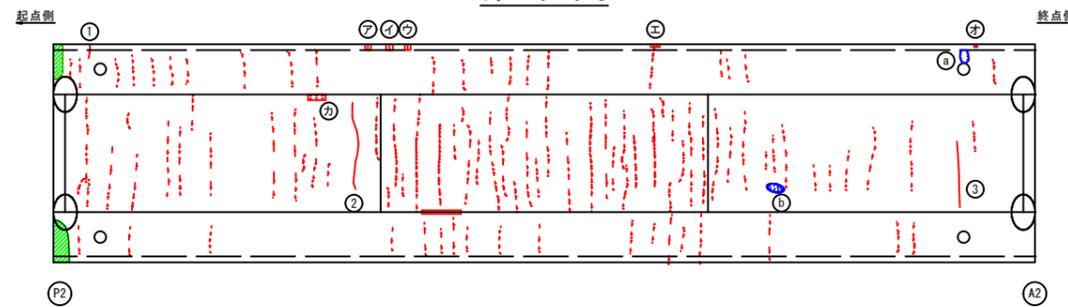
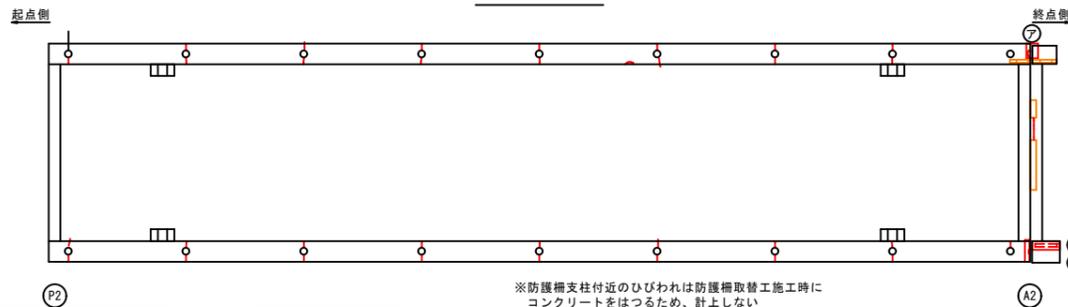
部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
床版0203	コ	豆板	200	500	50	0.1000	0.0050
床版0203	サ	豆板	400	650	50	0.2600	0.0130

ひびわれ延長(注入工)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]
床版0202	1	床版ひびわれ	0.2	1000
床版0202	2	床版ひびわれ	0.2	1570

第3径間

第3径間



断面修復面積(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
床版0201	カ	豆板	100	300	50	0.0300	0.0015

ひびわれ延長(注入工)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]
地覆0101	1	地覆ひびわれ	0.2	120
床版0201	2	床版ひびわれ	0.2	1450
床版0203	3	床版ひびわれ	0.2	1000

《補修工法一覧表》

損傷	補修工法
ひび割れ幅0.2mm未満	-
ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満	ひび割れ注入工
ひび割れ幅1.0mm以上	ひび割れ充填工
遊離石灰	ひび割れ充填工
剥離・鉄筋露出	断面修復工
うき・豆板	断面修復工

凡例

ひびわれ	
うき	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
豆板・空洞	
漏水・滞水	

断面修復面積(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
地覆(鋼柱)0101	ア	剥離	100	150	50	0.0150	0.0008
地覆0201	イ	剥離	500	150	50	0.0750	0.0038
地覆0201	ウ	剥離	150	100	50	0.0150	0.0008

- 凡例
- ①～：ひびわれ注入工法
 - Ⓐ～：ひびわれ充填工法
 - ㉞～：断面修復工法

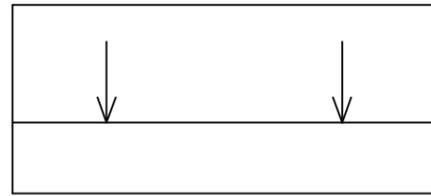
注) 足場架設後に現地実測の上、数量を確定すること。
 注) 基本的に0.2mm以上のひび割れを補修対象とする。
 注) 遊離石灰を伴う箇所は、要調査の上で補修すること。
 遊離石灰により、注入が困難な場合はUカット工法(もしくはVカット工法)で取り除き、ポリマーセメントモルタル埋戻しによる充填工法に変更し補修すること。
 注) 記載無きひび割れはひび割れ幅0.2mmを示す。

図面番号	第 3 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その2)	縮尺(A1)	図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

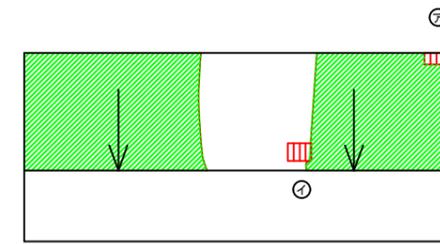
補修詳細図(その3) S=1:30

中央橋 下部工

A1橋台



A2橋台

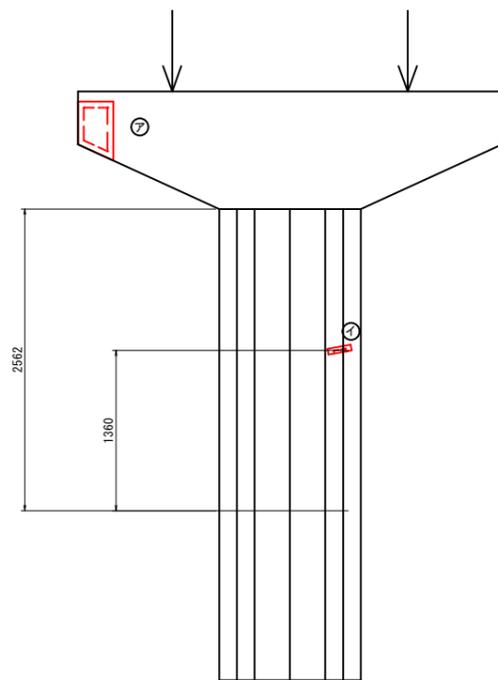


断面修復面積(左官工法)

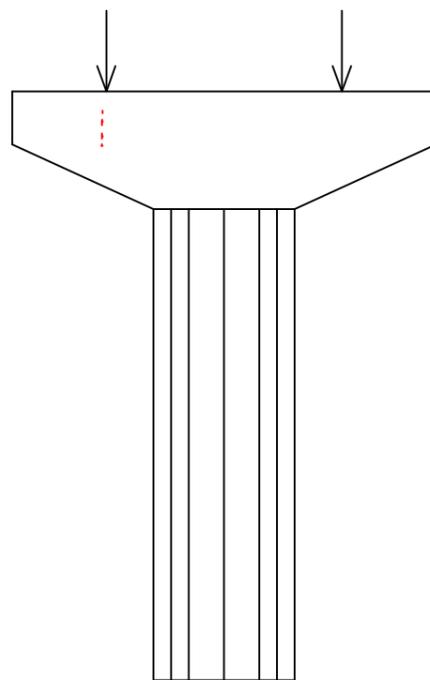
部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
橋台[壁]0102	ア	鉄筋露出	100	200	50	0.0200	0.0010
橋台[壁]0102	イ	鉄筋露出	150	200	50	0.0300	0.0015

P1橋脚

起点側正面



終点側正面

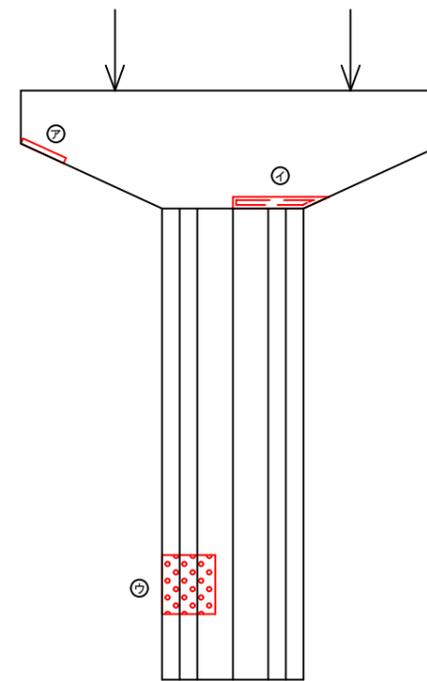


断面修復面積(左官工法)

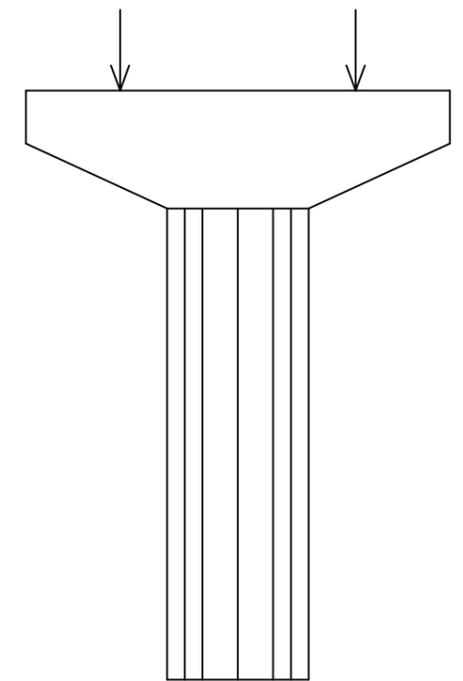
部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
橋脚[梁部]0102	ア	剥離	300	500	50	0.1500	0.0075
橋脚[柱部・壁部]0102	イ	剥離	200	50	50	0.0100	0.0005

P2橋脚

起点側正面



終点側正面



断面修復面積(左官工法)

部材	No.	種別	幅 W [mm]	延長 L [mm]	深さ t [mm]	面積 A [m ²]	体積 V [m ³]
橋脚[梁部]0102	ア	剥離	400	100	50	0.0400	0.0020
橋脚[梁部]0102	イ	剥離	1000	100	50	0.1000	0.0050
橋脚[柱部・壁部]0102	ウ	豆板	900	500	50	0.4500	0.0225

《補修工法一覧表》

損傷	補修工法
ひび割れ幅0.2mm未満	-
ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満	ひび割れ注入工
ひび割れ幅1.0mm以上	ひび割れ充填工
遊離石灰	ひび割れ充填工
剥離・鉄筋露出	断面修復工
うき・豆板	断面修復工

凡例	例
ひびわれ	
うき	
剥離	
鉄筋露出	
遊離石灰	
豆板・空洞	
漏水・滞水	

ひび割れの線種	説明
	ひび割れ幅0.2mm未満
	ひび割れ幅0.2mm以上1.0mm未満
	ひび割れ幅1.0mm以上および遊離石灰

注) 足場架設後に現地実測の上、数量を確定すること。
 注) 基本的に0.2mm以上のひび割れを補修対象とする。
 注) 遊離石灰を伴う箇所は、要調査の上で補修すること。
 遊離石灰により、注入が困難な場合はUカット工法(もしくはVカット工法)で取り除き、ポリマーセメントモルタル埋戻による充填工法に変更し補修すること。
 注) 記載無きひび割れはひび割れ幅0.2mmを示す。

凡例

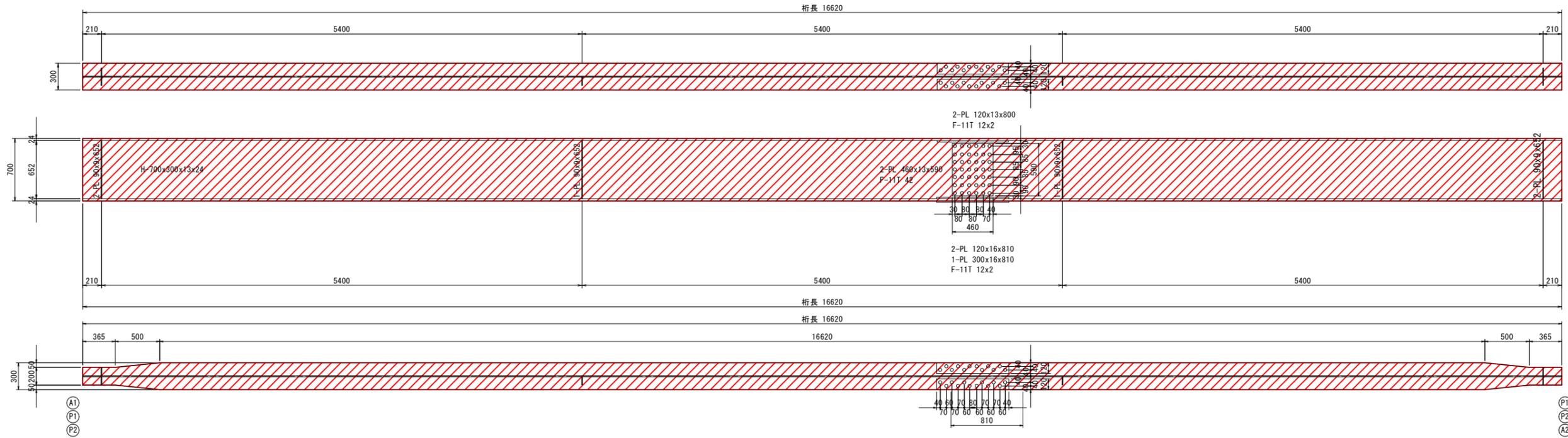
⑦~:断面修復工法

図面番号	第 4 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	補修詳細図(その3)	縮尺(A1)	図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

塗装塗替詳細図 S=1:25

主桁詳細図

G1, G2桁

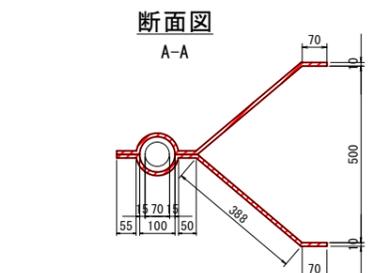
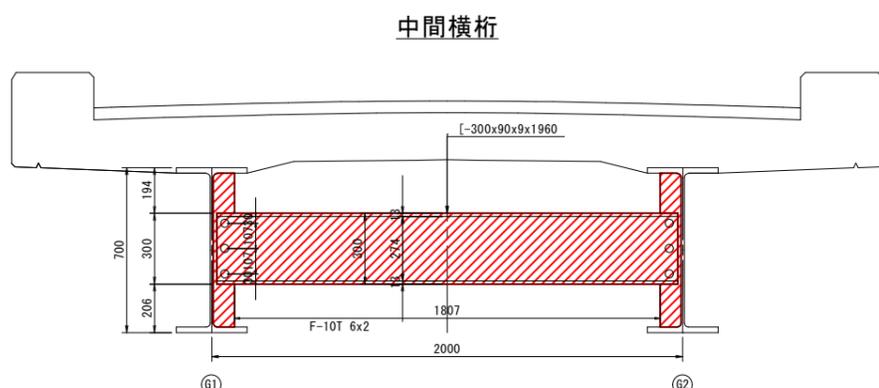
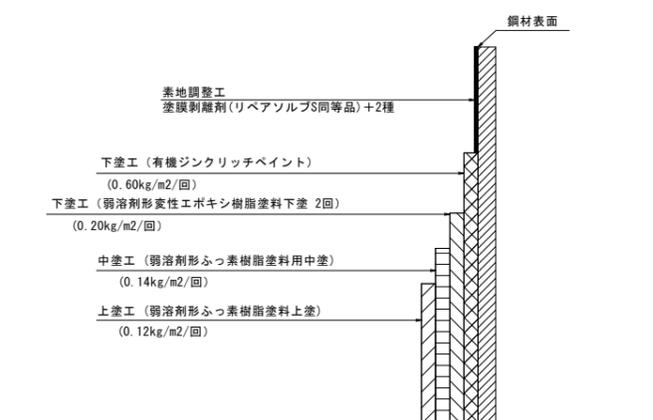
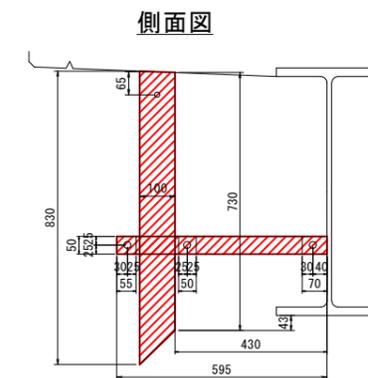
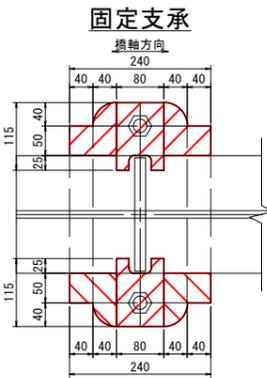
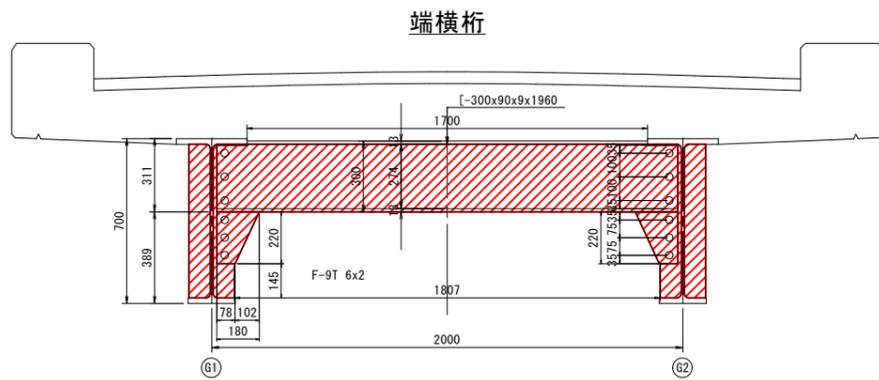


横桁詳細図 S=1:15

支承詳細図 S=1:6

排水管詳細図 S=1:10

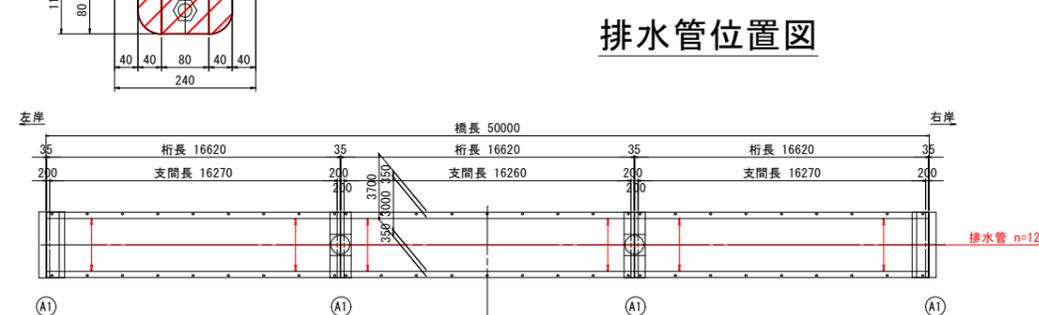
塗装塗替要領



仕様一覧 (Ro-II塗装系)

塗装工程	塗料名	使用量 (g/m2)	塗装間隔
素地調整	塗膜剝離剤 (リベアソルPS同等品以上) + 2種		4時間以内
下塗	有機ジンクリッチペイント	600	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
下塗	弱溶剤変性エポキシ樹脂塗料下塗	200	1日~10日
中塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料用中塗	140	1日~10日
上塗	弱溶剤形ふっ素樹脂塗料上塗	120	1日~10日

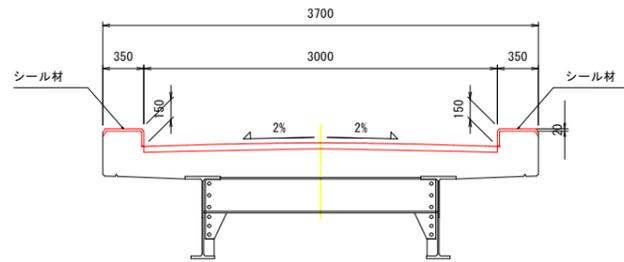
使用量()内は、鋼材露出部のみ有機ジンクリッチペイントを塗付する。



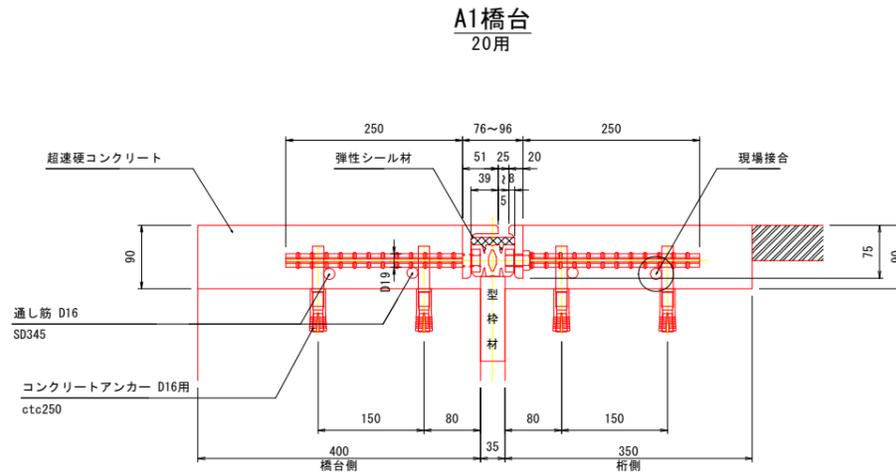
図面番号	第 5 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	塗装塗替詳細図	縮尺 (A1) :	図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

伸縮装置取替構造図 S=1:30

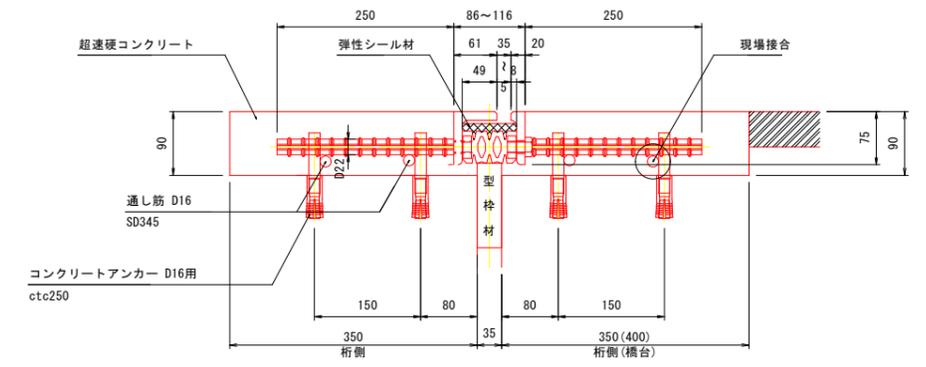
上部工断面図



伸縮継手断面図 S=1:5

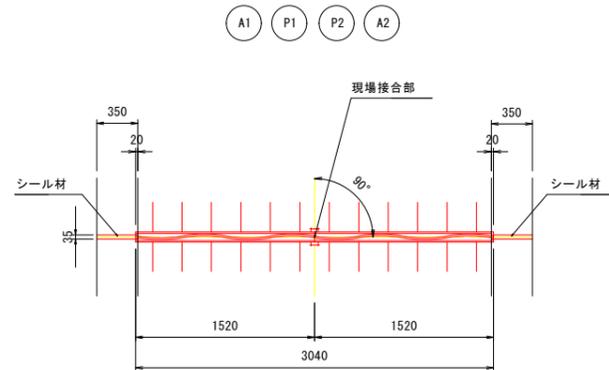


P1橋脚, P2橋脚、A2橋台 30用



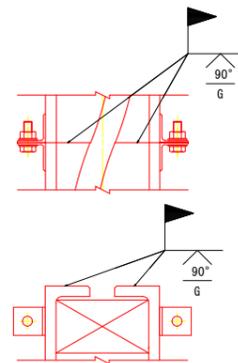
※()内はA2部を示す。

平面図

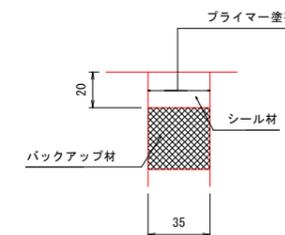


※ 現場接合部は、パッキンに接着剤を塗布し接合すること。
また、指定範囲に溶接を施すこと。

現場接合部詳細図



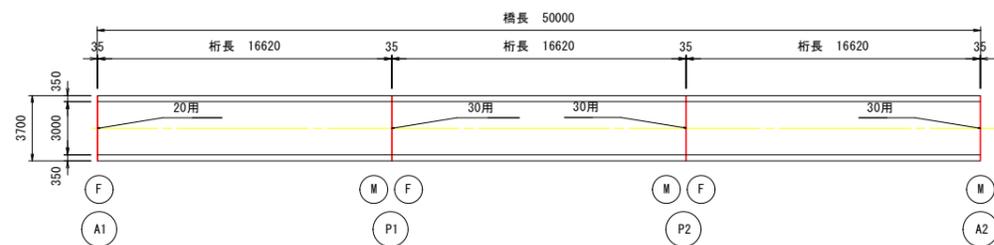
シーリング材充填図 S=1:2



設計伸縮量

下部工形式	設計条件			
	A1橋台	P1橋脚	P2橋脚	A2橋台
温度範囲	-10℃~+40℃			
設計温度	15℃			
常時設計伸縮量	16.3mm	26.7mm	26.7mm	20.4mm

位置図 S=1:200



伸縮継手材料表

名称	材質	A1数量	P1数量	P2数量	A2数量	合計数量	備考
20用	SS400 合成ゴム SD345 弾性シーリング材	3.040 m				3.040 m	車道用
30用			3.040 m	3.040 m	3.040 m	9.120 m	車道用
シーリング材	シリコン系	0.70 リッター	0.70 リッター	0.70 リッター	0.70 リッター	2.80 リッター	地覆部
超硬コンクリート		0.203 m ³	0.189 m ³	0.189 m ³	0.203 m ³	0.784 m ³	
通し筋	SD345	4 本	4 本	4 本	4 本	16 本	D16x3000
コンクリートアンカー		48 本	48 本	48 本	48 本	192 本	D16用
接着剤		1 式				1 式	20用
〃			1 式	1 式	1 式	3 式	30用

注) 伸縮継手長さは、現地測量後決定する事。

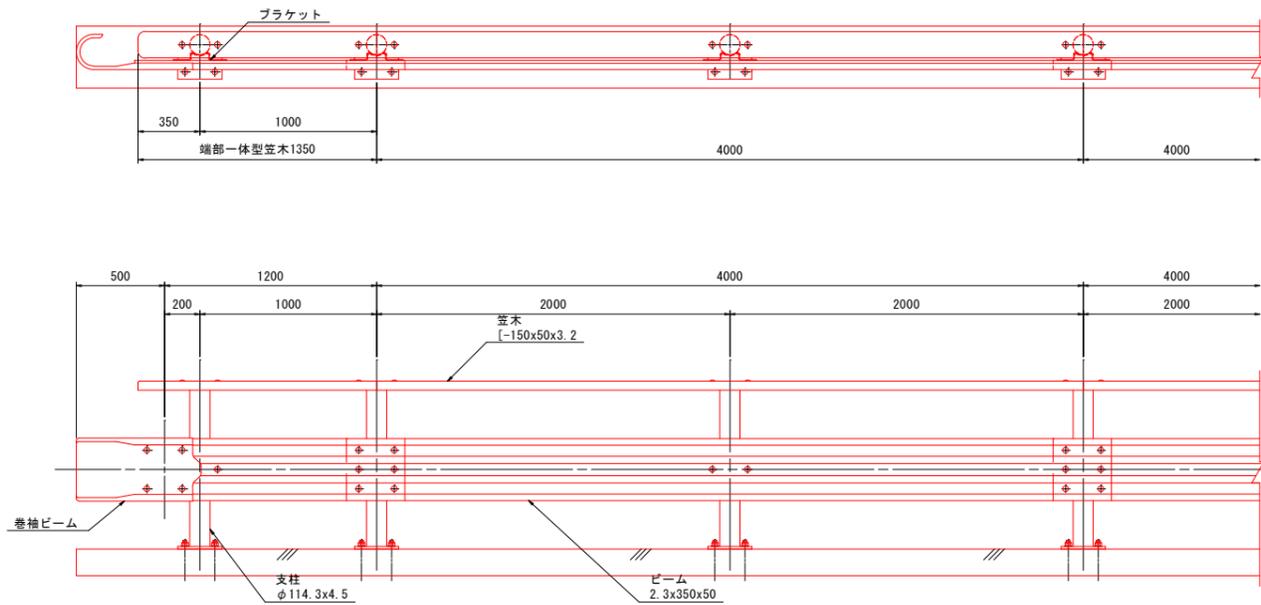
注) 既設伸縮継手の後打ちコンクリートは、撤去する事。

図面番号	第 6 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	伸縮装置取替構造図		縮尺(A1): 図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			

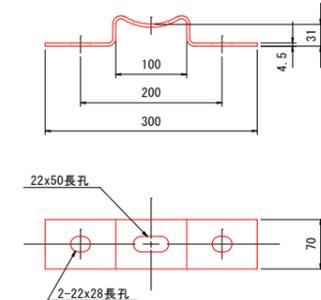
防護柵取替構造図(その2) S=1:20

中央橋

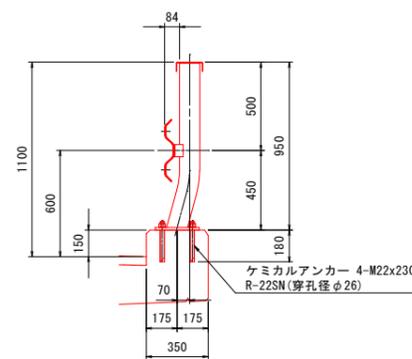
組立図
C種防護柵



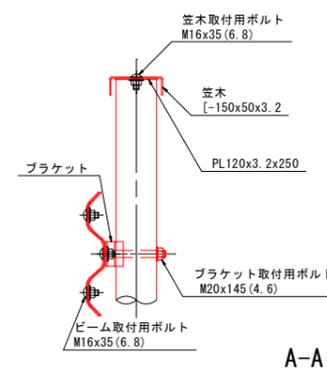
ブラケット S=1:5



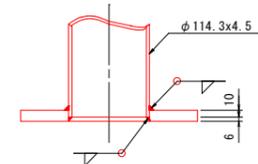
断面図



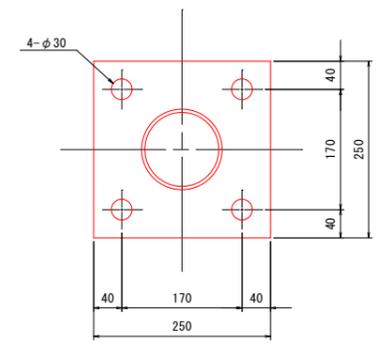
取付詳細図 S=1:10



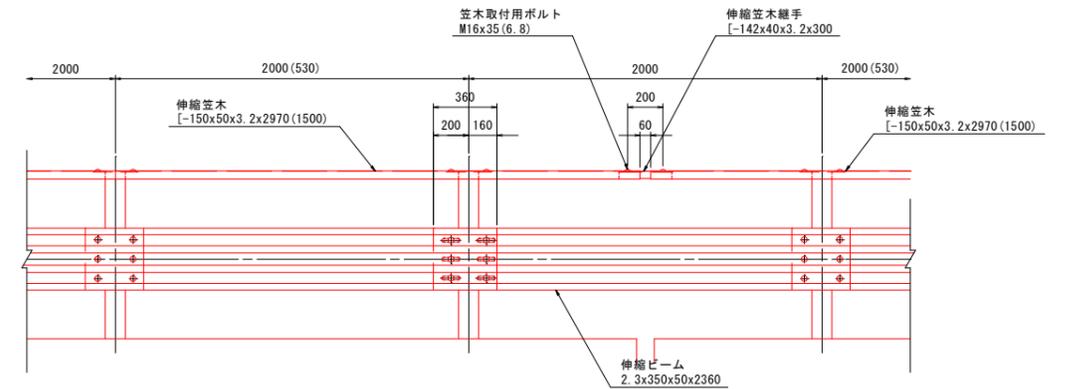
A-A 断面図



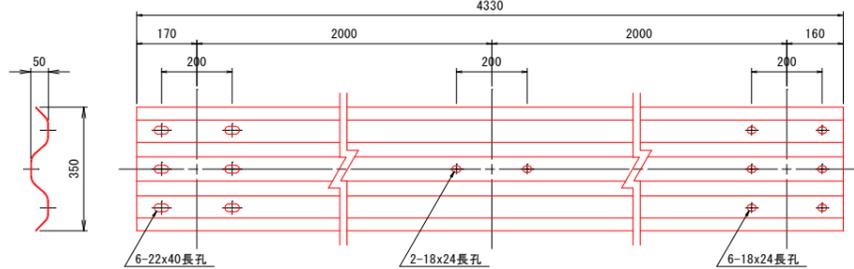
ベースプレート詳細図 S=1:5



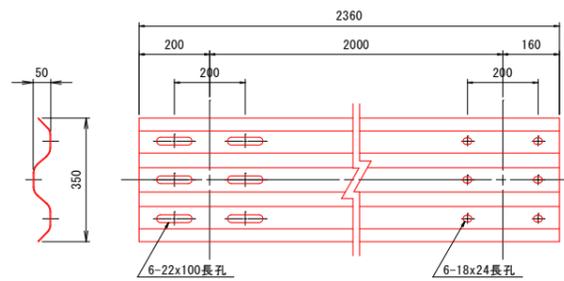
伸縮部詳細図



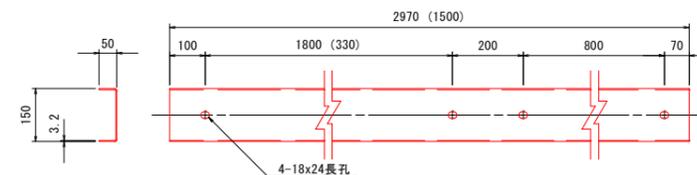
ビーム S=1:10



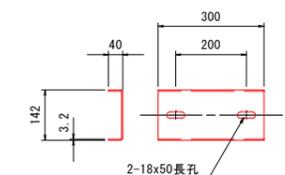
伸縮ビーム S=1:10



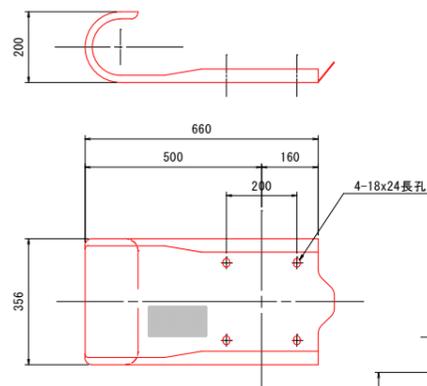
伸縮笠木 S=1:10



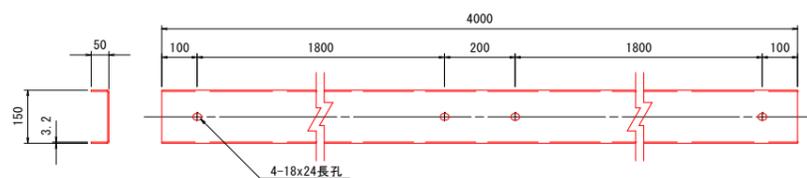
伸縮笠木継手 S=1:10



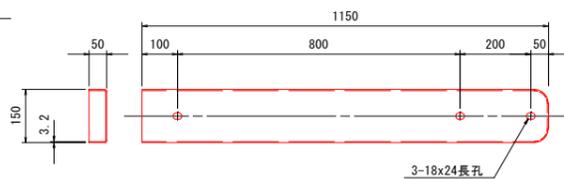
巻袖ビーム S=1:10



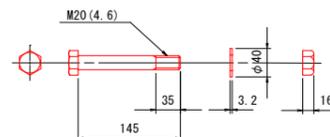
笠木 S=1:10



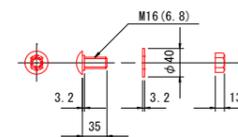
端部一体型笠木 S=1:10



ブラケット取付用ボルト S=1:5



笠木・ビーム取付用ボルト S=1:5

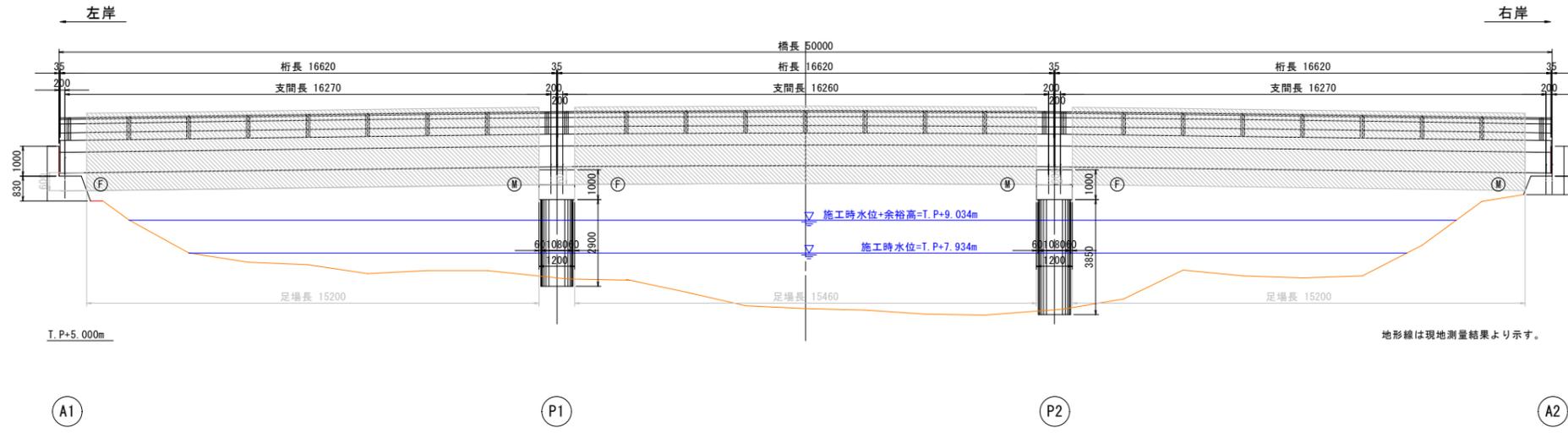


図面番号	第 8 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	防護柵取替構造図(その2)	縮尺(A1):	図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長
	係員	設計・製図	照査

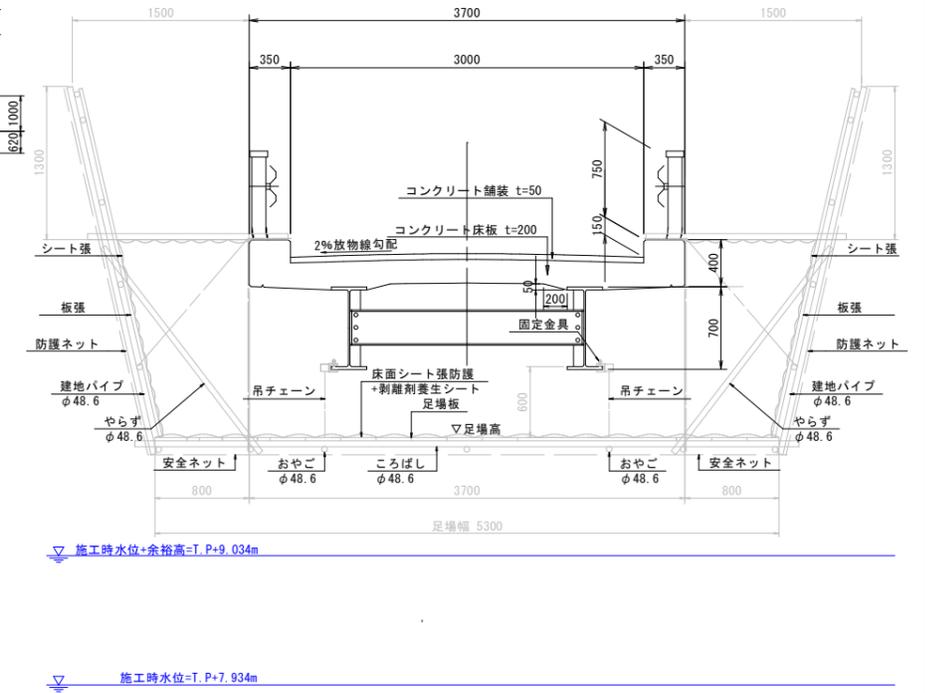
施工要領図 S=1:100

中央橋

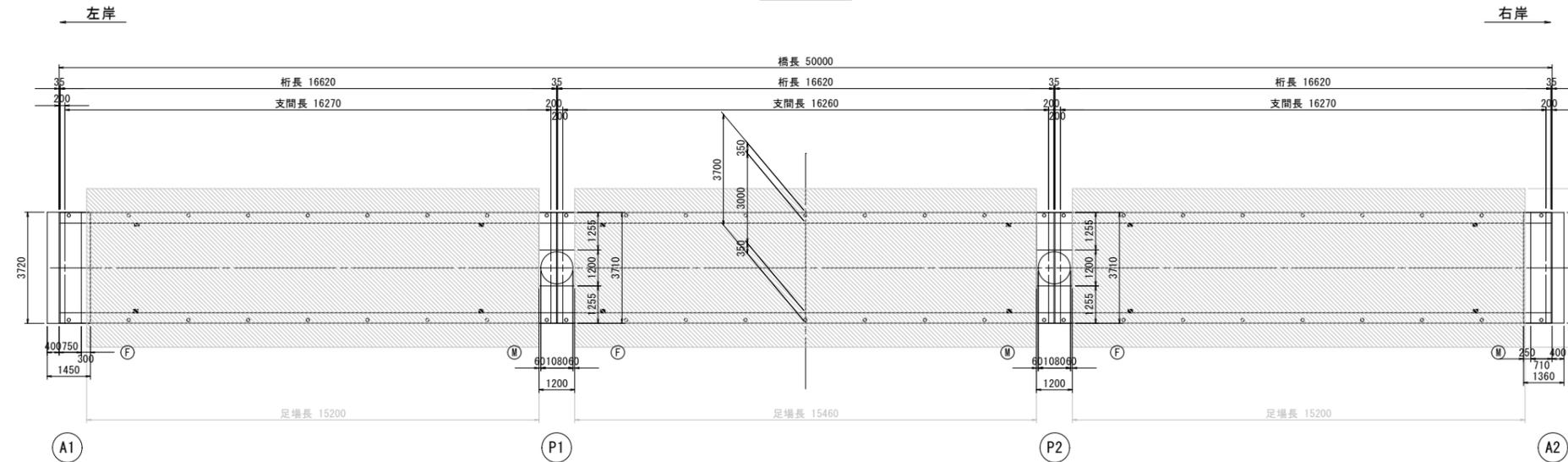
側面図



上部工断面図 S=1:30 横桁部



平面図



図面番号	第 9 号	図面総数	全 9 葉
工事名称	中央橋橋梁補修工事		
図名	施工要領図		縮尺(A1): 図示
製作年月	令和7年7月	所属年度	令和7年度
係員	課長	副課長	係長 係員 設計・製図 照査
鳴門市 都市建設部 土木課			